平成 16 年 12 月の解説（週間天気予報）

【12 月の天候状況】

上旬と中旬は冬型の気圧配置となる日が少なく、北陸地方でも移動性高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。4 日から 5 日にかけては、本州付近で低気圧が発達して全国的に大荒れの天気となり、5 日の早朝に強い南風の吹いた関東地方では内陸部を中心に 25℃以上の夏日となる所が多く、熊谷の最高気温は 26.3℃まで上昇しました。

下旬は北日本を中心に冬型の気圧配置となる日が多くなり、全国的に寒気が流入した影響で平均気温も徐々に下がり始めて、25 日頃には平年並に戻りました。29 日と 31 日には、相次いで本州の南岸を低気圧が通過した影響で、太平洋側の地方でも雪が積もりました。

【12 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均で例年(注)並の 74%でした。北海道などで例年より 2 ポイント低く、中国地方などで例年より 3 ポイント高かったのを除き、ほぼ全国的に例年並でした。

最高気温の予報誤差（RMSE）は、全国平均（2～7 日目の平均）で例年より 0.2℃大きい 2.4℃でした。九州北部地方と九州南部地方では例年より 0.4～0.5℃小さくなりましたが、北日本と東日本の太平洋側の地方では、5 日に急発達した低気圧と 31 日の南岸低気圧の両事例で低気圧の発達する度合が予想から大きく外れた影響で、例年より 0.5～0.6℃大きくなりました。

最低気温の予報誤差は、全国平均で例年並の 2.2℃でした。

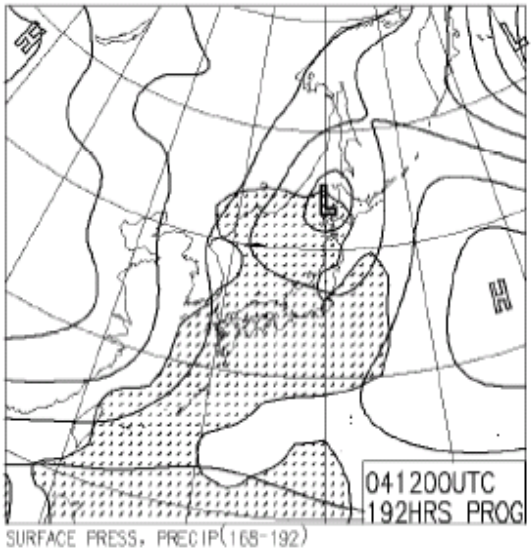
(注) 例年値は気象庁ＨＰ（評価）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

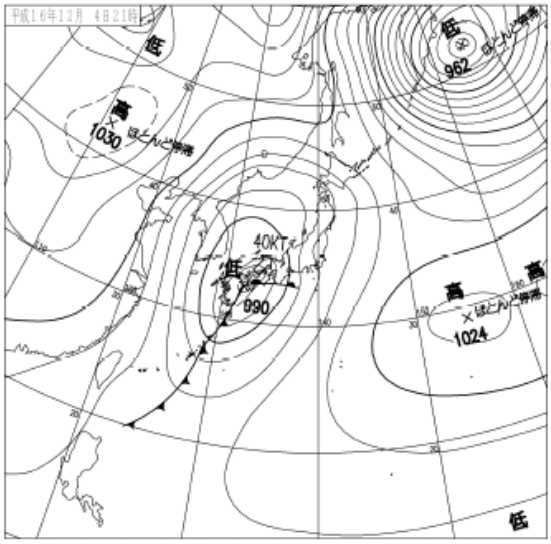
【12 月の週間天気予報から】――大荒れの天気と異常な高温をもたらした低気圧――

4 日から 5 日にかけて、日本付近を低気圧が急速に発達しながら通過しました。4 日 9 時に東シナ海で発生した低気圧の中心気圧は 1004 hPa でしたが、4 日 21 時に豊後水道付近に達した時には中心気圧が 990hPa まで深まり、さらに翌 5 日 9 時には三陸沖で 976hPa になりました。5 日の早朝に低気圧が通過した際には、東京で 1964 年の統計開始以来第 1 位となる最大瞬間風速 40.2 ㍍の南西風が観測されたり、東海地方を中心に 1 時間 40 ㍉の強い雨が降ったりして、全国的に大荒れの天気となりました。

この低気圧は、4 日に台湾付近まで北上した台風第 27 号の北東側で停滞していた前線上に発生し、台風からの暖かく湿った空気を取り込んで、発生から 12 時間に中心気圧が 14 hPa 深まりました。低気圧の東進後は、東海上にあった高気圧からの縁辺流が加わって、24 時間に中心気圧が合計 28 hPa 深まる急発達をしました。関東地方では、5 日早朝の強い南風に加えて、午前中からの晴天に伴う日射の効果で、東京（大手町）での最高気温は 24.8℃に達し（12 月として 1 位の高温記録）、関東地方の内陸部では「夏日」となりました。

4 日から 5 日にかけてのほぼ全国的な天気の崩れは 7 日前の週間天気予報でも予報していましたが、低気圧の中心が日本海から北海道を通過する予想にとどまり、本州付近での急発達については予想できませんでした。





4 日 21 時の地上天気図

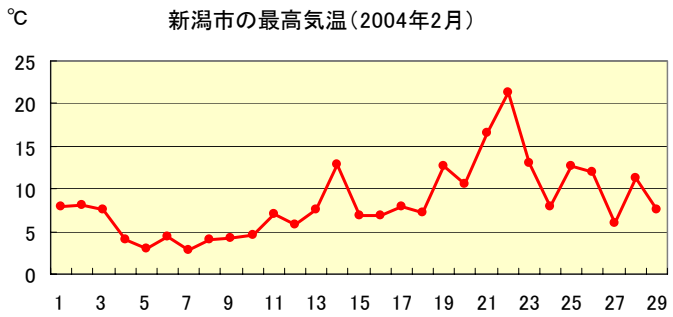
左図は 11 月 27 日発表の予報で参考にした数値予報の天気図（陰影は雨域の予想）。実況（右図）と比べ、低気圧の位置や発達の程度は異なるが、日本付近が深い気圧の谷の中で、ほぼ全国的に降水域がかかる様子は比較的よく予想している。

【2 月の天候の特徴と週間天気予報の利用に際して】

2 月は日照時間の最も短い時期を過ぎ、急速に太陽高度が高くなってくる時期です。冬型の気圧配置の日も徐々に少なくなって、天気が周期的に変化するようになるのに伴い、日々の気温変動が大きくなってきます。

この頃に低気圧が日本海で発達する際には、広い範囲で強い南風が吹きます。この南風が持ち込む暖気で地上付近の気温が上がった後に寒冷前線の通過に伴う強い雨が降れば、積雪地帯の雪解けを一気に進めて、大規模な雪崩の発生することがあります。昨年（平成 16 年）の 2 月 22 日、日本海を発達しながら北東進した低気圧に向かう南風が吹き、融雪による雪崩や崖崩れが中部地方から北海道にかけて多数発生しました。

この時期の週間天気予報で、全国的に天気が崩れて、日本海側の地方を中心に平年より高い気温を予報している日があれば、積雪の多い地域は融雪に伴う災害の発生に用心してください。



北陸地方の日最高気温の変化

平成 16 年 2 月の新潟市の日最高気温。22 日は、強い南風にフェーン現象の効果が加わり、日本海側の地方を中心に 2 月の日最高気温の記録を更新した所が多かった。その後は、一気に気温が下がって、日々の気温変化が大きい。